

第6回平和市長会議被爆60周年記念総会

開 会 式

2005年8月4日(木) 13:00~14:30

広島国際会議場フェニックスホール

開 会 あ い さ つ	秋葉忠利(平和市長会議会長、広島市長)
来 賓 祝 辞	コフィー・アナン(国際連合事務総長) 代読:阿部信泰(国際連合事務次長) 藤田雄山(広島県知事) 代読:齊藤忠臣(財団法人広島平和文化センター理事長)
被爆60周年記念講演	ダグラス・ロウチ(中堅国家構想議長、元カナダ国連軍縮大使、元カナダ上院議員)

広島市長 秋葉忠利：

阿部信泰軍縮担当国連事務次長、ダグラス・ロウチ中堅国家構想議長、猪口邦子上智大学教授、最上敏樹国際基督教大学教授、ご来賓の皆様、世界各国の都市からいらした皆様、大使館からご出席の皆様、本日は第6回平和市長会議被爆60周年記念総会の開催にあたり、国内外からこのように大勢の皆様にご出席いただき、厚く御礼申し上げます。心から皆様を歓迎いたします。

議事に入ります前に、まず主要な平和市長会議メンバーの方々、同盟の方々、そして過去1年の行動に重要な役割を果たした方々をご紹介します。

まず、国際連合軍縮担当事務次長の阿部信泰様。阿部事務次長は、特に、2004年のNPT再検討会議準備委員会以降、大きな役割を果たしてこられました。阿部信泰事務次長のお力添えによりまして、国連でこの5月、二つの重要なイベントを開催することができました。一つのイベントにおいては、アナン事務総長にもご出席、ご講演いただきました。

次にご紹介させていただきますのが、欧州議会のギゼラ・カレンバッハ議員です。欧州議会代表として、今回ご出席いただいております。欧州議会は二つの決議を採択され、「2020ビジョン」を支持してくださっております。これは私どもを強く激励するものであり、世界の過半数が私どもを支持してくださるといふこと、そして欧州の活動家の中でも我々の活動をさらに高めてくださったものです。

次に、フランス平和自治体協会会長でいらっしゃいますダニエル・フォンテーヌ、オーバーニュ市長です。フランス平和自治体協会（AFCDRD）の代表としてオーバーニュ市長が来てくださっています。平和市長会議を長らく支えてくださっておりますオーバーニュ市長です。最近、原爆展も開催されました。フランスの平和市長会議の手本でもいらっしゃいます。

次に、英国非核自治体協会のジョージ・レーガン会長です。英国非核自治体協会が非核の活動を地元で展開され、そして平和市長会議の活動を特にヨーロッパで支持してくださっております。レーガン会長は、特にマンチェスターのエグゼクティブ・コミッティーでも重要な役割を果たし、そこで2020ビジョンも支えられております。

次に、アルフレッド・マーダー会長です。ピースメッセンジャー都市国際協会の会長でいらっしゃいます。ピースメッセンジャー都市国際協会は、強力な力を発揮され、またマーダー会長自らが我々の緊急行動に大きく寄与され、そしてマンチェスターでの理事会にも参加してくださっております。

ビバリー・オニール市長は、カリフォルニア・ロングビーチの市長でいらっしゃいますが、全米市長会議の現在の会長でもおられます。今夜8時にこちらに着かれ、会議に参加されます。そして、全米市長会議は1,183の市を代表し、「2020ビジョン」を支持してくださっております。

ます。これは昨年6月の総会で支持が発表されております。

では次に、副会長都市を紹介いたします。伊藤一長長崎市長、もうご紹介するまでもなく皆様ご存じのかたです。伊藤一長長崎市長は大きな貢献をしてくださっており、NGOの活動、若者の参画を平和行動、特に日本において積極的に支えてくださっています。そして、日本の非核宣言自治体協議会、300以上のメンバーを抱える組織の会長でもいらっしゃいます。

次に、ドイツ・ハノーバー市のヘルベルト・シュマルスティーク市長は、最も長く理事、副会長を務めてくださっております。ドイツは反核運動のリーダーであり、そこでの成功の源は、何らかの形でシュマルスティーク市長に関わるものと言われております。

フランスでは、我々は幸いにも非常に強力なチームを得ることができております。マラコフ市のカトリーヌ・マルガテ市長も、その中で強力な役割を果たしてくださっております。また、彼女のダイナミックな事務総長でいらっしゃいますミシェル・シボさんと奥様の美帆・シボさんも、今回ここに来ていらっしゃいます。フランスの平和市長会議支部で活動を活発にしてくださっております。そして、美帆さんが千羽鶴に関して映画を作られました。これも皆さんご存じの方も多くいらっしゃると思います。

また次に、イギリス・マンチェスター市のモハメド・アフザル・カーン市長をご紹介いたします。イギリスにおける理事でいらっしゃいます。マンチェスターは長らくケンプさん、我々のアドバイザーでいらっしゃる方の力を借りて、積極的に活動してくださっております。

次に、ロシア・ボルゴグラード市のエフゲニー・ペトロヴィッチ・イシュチェンコ市長です。ボルゴグラード市は、ニューヨークへ代表団を参加させ、そして平和市長会議を常に支えてくださっております。ペトロヴィッチ市長、そしてボルゴグラード市は、ロシアでの活動を大きく指導してくださっています。

次に、ラウル・コロ、モンテンルパ市議会議員です。常に我々の会議に参加し、貴重なご意見をいただいております。モンテンルパの役割は、これからさらに大きくなると思います。アメリカ、ヨーロッパから、これから我々の行動はアジアにも焦点を当てることになります。

最後になりましたが、スザンナ・アゴスティーニ、イタリア・フィレンツェ市市議会議員をご紹介させていただきます。レオナルド・ドミニチ、フィレンツェ市長は、イタリア市長会の会長を務めていらっしゃいます。個人的にお電話をいただきまして、市長はイタリア市長会全体が、平和市長会議を支持してくださるということでした。つまり、我々はイタリアに非常に大きな支部を得ることができるという、大変素晴らしいニュースです。

もう一度申し上げますが、これだけ多くの方々、都市、組織の方々をご参加くださいましたことを大変うれしく思っております。また、お忙しい中ここにご参会くださいました皆様に、心か

ら御礼申し上げ心から皆様を歓迎いたします。

平和市長会議は、1982年に設立されました。広島市、長崎市が中心となりまして、都市と都市との緊密な連帯を通じて、核兵器廃絶に向けた市民意識を国際的な規模で喚起し、核兵器のない平和な世界を実現することを目的にして、1985年8月には第1回の総会が開催されました。4年前、第5回会議を開きました時には508都市がメンバーでしたが、この4年で572の新たな都市が加わり、加盟数が1,080都市、112か国・地域をまたがるものとなりました。これが皆様のご努力の賜物、各国におけるご努力の賜物と考えております。真のグローバルなNGOとなりまして、何百万人もの人々を代表しております。

ある都市の平和活動家が力を発揮し、新しく平和市長会議のメンバーを寛大に務められるという事です。例えばベルギーであるとか、あるいはマザー・アースの人々、そしてイギリスの人々、何百もの新しい市がこれに加わっていきました。ベルギーの半分の都市が、もう既に平和市長会議のメンバーです。我々のメンバーの都市の市長の方々が平和活動を支持して下さった場合には、期待をはるかに上回る成果が生まれます。核兵器廃絶の鍵となるのは、密接な協力を平和活動家と市長の間で展開することだと考えています。

この4年間で平和市長会議がこのように大きく伸びたのは、私たちが危機感を持っているからだと考えております。アメリカが軍縮から背を向け、そして核兵器開発をさらに始めている。そして核兵器を宇宙にまでという威嚇をしている。またそれに対応し、ロシアは核兵器への依存を高めています。インドやパキスタンも、戦争をもう少しで起こしそうな状況になり、そのような場合には核の応酬も危機感を持って考えたわけです。そして安全保障のために、北朝鮮がNPTから脱退し、そしてニューヨークではワールド・トレード・センターがテロ攻撃を受け、その後アフガニスタン、イラクの攻撃が始まり、イラクの場合にはその攻撃をしたにもかかわらず、それは存在しない大量破壊兵器の脅威が源でした。最も我々に脅威をもたらしたのは、いわゆる「テロへの戦い」というものがあり、それがいろいろな嫌悪や暴力、報復を次々と生み、さらにその結果としてテロリストが核兵器を使う、攻撃をするという脅威も生まれたわけです。

マンチェスターで2003年に理事会を開いた平和市長会議は、「核兵器廃絶のための緊急行動」を採択しました。長崎においてその年、これが実行され、「2020ビジョン」が促進されました。すなわち、2020年までに核兵器廃絶を行うというものです。この時がちょうど被爆58周年でした。しかし、今年5月、国連本部で開催されたNPT再検討会議は、私たちに失望させるものでした。核軍縮に一向に取り組もうとしない核保有国があり、核軍縮の履行を求める非保有国との意見が対立し、意味ある成果は生まれませんでした。核兵器廃絶のための唯一の国際合意であるNPT体制は、まさに崩壊の危機にあると言っても過言ではありません。

こうした状況の中で、今回、被爆60周年を迎える直前にこの会議を開くことは、大変意味があることです。皆様、非常に多くの都市の方々、国の方々がここに集われたということは、世界が本当の意味での平和を求めていることを反映するものであり、主催者としては、皆様の参加ほど、喜びをもたらすものはないと考えます。平和市長会議は、世界の市長の集まりであり、都市の集まりであり、市長には市民の安全を守る責任があります。しかし、核兵器がもし使用された場合、どのような計画や訓練を行ったとしても、私ども市長が多くの被害を受けた人々、けがをした人、亡くなった人を守ること、助けることはできません。そのために、市民を守る唯一のやり方としては、核兵器を使用させないということ、そして核兵器を使用させない唯一の方法は、物理的にそれをなくす、廃絶することが唯一の方法です。

核兵器を廃絶しようという声は、全世界の圧倒的多数の市民の声であると言えます。核兵器が必要だと言っている人は、世界の中でほんの一握りの権力を持っている人だけ、そしてその権力者を選んでいるのは大多数の市民です。つまり、私たちが唯一やればいいのか、核兵器を選挙の中でも重要な問題として取り上げさせるということです。そして大多数の市民の声の結果として、実際に核兵器廃絶は可能なわけです。

今回の総会では、NPT再検討会議の結果を検証し、核兵器廃絶に向けて平和市長会議の今後の取り組みを、さまざまな角度から検討していきたいと考えています。対人地雷禁止条約などを一つの手本としていきたいと考えております。そして外交を通じて、我々の目的を実行したい。この対人地雷禁止条約は、世界中の人々を巻き込み、効果的な国際条約をその結果として生み出したわけです。これが私たちの手本です。

言いましたように、地球の多くの人々は人類の存続を望んでいるわけで、私たちはこの大半の人々の意思を反映させることが必要であり、それを国際的な意思決定の中で反映することが必要です。最も効果的に核の脅威を人々に理解させることが必要です。そしてその人々に対して、自らの要求が聞こえるような声を持ってもらうように、そして指導者にその声に耳を傾けさせることが必要です。8月4日から8月6日までの3日間、世界の都市と都市とか国家や民族の壁を越え、思想や心情の違いを超えて手を結び、核兵器廃絶について、そのような議論をしていただきたいと思っております。皆様からのお力添えをいただき、最も効果的な形で、平和を愛する皆様の各国の市民の声を聞かせていただきたいと思っております。

市長並びにその代表の方、60周年を迎える広島を訪れていただいた皆様に感謝申し上げます。この会議で核兵器による被害の実情や平和市長会議の取り組みに、深いご理解をいただき、各都市の市民の方々に広く伝えていただくようお願い申し上げます。恒久的なそして完全な核兵器の脅威をなくす努力をしたいと思っております。ありがとうございました。

それではここで、国連アナン事務総長からのご祝辞をご紹介します。アナン事務総長の代理として、阿部事務次長にメッセージの代読をお願いいたします。

国際連合軍縮担当事務次長 阿部信泰：

平和市長会議にご参集の皆様、ご来賓の皆様、それではアナン事務総長のメッセージを代読させていただきます。

「第6回平和市長会議被爆60周年記念総会の開催を、心からお喜び申し上げます。60年前に広島と長崎の上空で原子の核分裂が起こされた時、人類の未来に暗い影が落とされました。計り知れない破壊と人間の苦しみが社会を覆い、10万人以上の男女、子どもたちが一瞬のうちに亡くなり、20万人以上の人々が恐ろしい死に至る病を背負うことを運命づけられました。世界の政治は一変しました。そして、人類の全滅もありうる恐ろしい事態となったのです。相互の脆弱性は避けられないものとなりました。にもかかわらず、その影の中から新しい希望が生まれました。我々の相互依存関係により、国連が生まれました。そして、集団安全保障の概念が生まれました。広島、長崎の恐怖とそして国連創設の志とのつながりは、すぐさま明確になりました。国連総会はまさにその最初の決議において、人類共通の目標が、大量破壊につながる兵器の全廃であるべきだと宣言したのです。

60年経ち、世界は再び核の脅威に目を覚まされました。核の拡散は、世界が直面する最も切迫した問題の一つです。何万もの核兵器の多くが、即時警戒態勢に置かれています。核の闇市場の台頭及びテロリストが核兵器や核物質を手に入れようとしていることが、核の脅威を複雑化しています。当時の国連の創設者たちにとってもそうであったように、私たちにとっての今日の決意は、前世代から引き継いだもの以上に輝かしい遺産を次の世代に引き継ぐことにあります。国連憲章が描くように、より大きな自由のある未来を築かねばなりません。核の危険がない、そして究極的には核兵器のない世界に向けて努力し続けなければなりません。広島、長崎の恐怖が、どこの誰にも二度と起こらぬよう、あらゆる国が最善を尽くさなくてはならないのです。だからこそ、私は、平和市長会議の皆さんが、2020年までに世界から核兵器を廃絶しようというビジョンをお持ちになっていることに勇気づけられます。世界の人々の希望を代表する皆さんは、各国と世界をつなぐ重要な役割を担っております。

来たる9月、世界の指導者たちが国連に集い、各国及び政府首脳によるかつてない規模の大会議が開催されます。その場を彼らは皆さんのビジョンを実現するために、大胆な措置を取る機会として使うでしょう。次世代のために、今日の社会のために、そして広島、長崎の犠牲者の記憶を留めるためにも、それが彼らの最低限の仕事になると思います。

広島市長 秋葉忠利：

阿部事務次長、ありがとうございました。それでは、齋藤忠臣広島平和文化センター理事長に、藤田雄山広島県知事からのメッセージを代読いただきます。

広島平和文化センター理事長 齊藤忠臣：

『第6回平和市長会議被爆60周年記念総会』の開催を心からお慶び申し上げますとともに、参加者の皆様の核兵器廃絶に向けた活動に深く敬意を表します。

1945年8月6日に人類史上最初の原子爆弾による被爆を経験して以来、私たち広島県民は核兵器の廃絶と恒久平和の実現を世界に強く訴えてまいりました。今年は戦後60周年という節目の年ですが、国際社会に目を向けてみますと、新たに核兵器の保有を目指す国が出現し、また本年5月に開催された核兵器不拡散条約運用検討会議においても、核軍縮・核不拡散に向けた具体策が示されないなど、核廃絶への道のりは険しいものがあります。

加えて、民族、宗教、貧困など様々な課題が絡み合う中で、地域紛争やテロの頻発など国際情勢はますます複雑な様相を呈しております。

こうした中、広島県といたしましては、核兵器廃絶に向けた取り組みに加え、『創り出す平和』の理念のもと、平成15年に策定した『ひろしま平和貢献構想』に基づき、広島に蓄積された知識・人材・施設を活用し、紛争終結地域における復興支援や人材育成などの平和貢献活動を推進しているところです。

私どもは、地方公共団体も国際機関や中央政府、NGOなどとともに、国際社会の平和と安定の構築において重要な役割を担うことができると考えており、今後とも、より積極的な役割を果たしてまいります。

本日、世界各都市の代表者やNGOの皆様が一堂に会され、核兵器廃絶と恒久平和の実現に向けて連帯を深めながら、幅広く議論を交わされることは、本県にとりましても大変有意義であり、恒久平和の実現に大きく貢献するものと期待しております。

終わりに、この会議が参加者の皆様、さらには国際社会全体にとりまして実り多いものになりますことを祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。

2005年8月4日、広島県知事、藤田雄山」

他にもロンドン市のケン・リビングストン市長をはじめご欠席の国内外の市長から、核兵器廃絶の実現と第6回平和市長会議被爆60周年記念総会の成功を祈念するメッセージをいただいております。

広島市長 秋葉忠利：

どうもありがとうございます。ではここでご紹介申し上げますことを大変光栄に思っております、被爆60周年記念講演者をお迎えいたします。被爆60周年記念講演として、広島市にとって、また8月9日の長崎市にとっても記念すべきものです。その記念として、ダグラス・ロウチ、元カナダ上院議員をお迎えしております。60周年を振り返って何をしてきたか、そしてこれから60年何ができるかというお話をいただきます。

ダグラス・ロウチ上院議員、そして大使は、いろいろな形で肩書きをお持ちではありますが、現在は中堅国家構想の議長をされています。ロウチ大使は1972年から1984年の間に議員を務められました。そして1988年には、国連の軍縮委員会の委員長となりました。1998年から2004年にはカナダの上院議員となられ、1998年から今まで中堅国家構想の重要な役割を果たしていらっしゃいます。軍縮の問題に関わる全てのものが、ダグラス・ロウチ上院議員並びに大使を欠くことができない人として、軍縮と核兵器廃絶の中心人物として認められると考えております。「軍縮のゴッドファーザー」とも呼ばれており、全くそのとおりの方でございます。

本日のタイトルは、「核兵器のない世界を実現するための障害の克服」というタイトルでお願いします。たまたまですが、ぜひお聞きいただきたいのは、私ども、お三方をご来賓の演者として迎えております。ロウチ氏、そして猪口先生、そしてウォーカーさんです。これらのお三方が、もうすでに死活的な重要な役割を、国連のもっと効果的な民主的な組織としての活動をするための行動を起こしていらっしゃいます。これがこのような方々のスピーチを聞いていただくことによって、明確になることを望んでいます。

では、ロウチ元上院議員お願いします。

被爆60周年記念講演：「核兵器のない世界を実現するための障害の克服」

ダグラス・ロウチ（中堅国家構想議長、元カナダ軍縮大使、元カナダ上院議員）：

市長、ありがとうございます。阿部事務次長、最上先生、そしてこの総会の議長を務めてくださいます先生、各市長の皆様、市の代表の方々、広島の友人の方々、私どもがここに集いこの地において広島、長崎の被爆60周年を記念するこの歴史的な地に集まるに当たって、私が最初に考えたのは被爆者のことです。これらの勇敢な人々、非常に苦しみながら世界に教訓を与えてきた人々に、私は敬意を表します。被爆者の体験は、決して失われてはなりません。将来の世代が、核兵器の現実を理解しなければならないのです。彼らはこの世の終わりを乗り越え、生き抜く道を選んだこれらの勇敢な人々から、学び続けねばなりません。被爆者は報復を拒否し、和解を彼らの指針としたのです。これらは長年にわたる教訓であります。

また、私は、平和市長会議を核兵器廃絶運動における活発な団体へと作り上げた秋葉市長の世界的指導性に深く敬意を表します。秋葉市長が非常に見事に明確に示した「2020ビジョン」キャンペーンは、核兵器のない世界を願う全ての人々に新しい希望をもたらしました。市民の利益の代表者として、このように傑出した世界的人物を選出されたことに対し、広島市民の皆様にお祝いを申し上げます。本日、私は中堅国家構想が、秋葉市長及び平和市長会議のキャンペーンを引き続き支持することを誓います。毎日のニュースは、気落ちするように思われても、核兵器のない世界を目指す枠組みは、視野に入りつつあります。これは恐らく逆説的でしょうが、そんな時、暗闇の中にも、視力がある人には光が見えるのです。私の経験から広島、長崎の被爆を乗り越えた世界を願い、それを目指して取り組むのは妥当だとも言えましょう。

議員として、外交官として、教育者として、私は核軍縮問題に30年以上に渡って取り組んでまいりました。私は、各国政府の無気力さと頑固さを十分に知悉しております。しかし、市民社会において起こっている進展も同時に目の当たりにしています。そこではますます多くの情報に通じ、献身的に活動している運動家が志を同じくする国々の政府と連携し、人間の安全保障を進展させるための事業を成し遂げています。対人地雷禁止条約、国際刑事裁判所及び政府開発援助、これらに対する政府の取り組みの新たな急増が生じてきたのは、市民団体が政府機関に情報提供したからです。私たちは、核兵器のない世界を目指す実行可能な計画を構築する入口に立っているのです。これは知識を持つ市民団体の指導者たちと、心から進展を望み、志を同じくする政府の政治家や官僚たちが、活発に協力する結果としてもたらされるものなのです。核兵器廃絶が実現するか、世界が核攻撃で破滅するか、どちらかの日はやってきます。どちらかは起こるのです。事の重要さが分かる人なら、それを誰も否定できないでしょう。

友人の皆様、本日、世界中が広島に注目しています。広島の爆心地において、犠牲者を問題の解決に引き続き確実に尽力させるのは、私たちの責務です。いついかなる場合でも、各国が核兵器の生産、配備、使用を禁止するという国の政策を私たちは持たねばなりません。もはや、曖昧さは許されません。私たちのメッセージを皆に聞こえるように伝えなければなりません。核兵器は道義に反するものであり、違法であり、絶対悪であると伝えなければならないのです。文明人は誰も、もはや核兵器保有を擁護することはできません。核兵器は地球上から廃絶されねばなりません。本日ここに集まった私たちは、闘争への新たな活力を結集しなければなりません。核による破滅、すなわち3度目の核使用を防ぐには、まだ遅すぎることはありません。しかし、急がねばなりません。

核兵器国は、自国の核兵器廃絶の交渉を拒否しています。核兵器の拡散が起りつつあります。核兵器が戦争における戦略の一部となっています。テロリストが核兵器を求めています。第2の核の時代が始まりました。これこそが、冷戦終結とともに核兵器の問題が解決したと思っている全ての人々に、伝えねばならないメッセージです。本日、私たちの取り組みを新たにしたので、元気を出しましょう。私たち核兵器廃絶を求める人々は、孤立した少数者ではありません。無分別な政治家は、私たちを過小評価しようとするかもしれませんが、私たちは広がりつつある多数派の一部です。秋葉市長が今もおっしゃいました。そして我々はその一員です。11か国で行われた国際世論調査によりますと、86%の人が「全ての国が核兵器を禁止する条約に調印すべきだ」という項目に強く賛成、またはある程度賛成しています。日本では、この数字は97%にのびります。日本の人々は核兵器廃絶を望んでいるのです。私たちは日本国政府に対し、日本国民が非常に切実に願っていることが実現できるよう、さらに尽力することを求めねばなりません。

アメリカにおいては、76%の人が全ての核兵器を廃絶する条約に賛成しています。しかし、アメリカ政府は現在、核軍縮への最大の障壁として立ちはだかっています。私はカナダ人として、こう言っているのです。アメリカの隣人であり、アメリカ人とともに生活し、アメリカ人を愛するカナダ人として、そう述べているのです。

私の3人の子どもは、アメリカで生まれました。しかし、議員及び外交官としての私の経験から、アメリカの現政権が、いかに法の支配を損ねているかは明確です。1995年及び2000年に定められた核不拡散条約を強化するという約束を、受け入れることを拒否しています。そしてアメリカ政府は、核不拡散体制を弱体化させています。彼らは他の国々が核兵器を取得することを禁じる一方で、彼らが引き続き核兵器を保有する権利を保持できるといった偏った考えを抱いています。アメリカに対し、はっきりと言わねばなりません。核兵器に関して、世界を二つの

階級に分けることはできないのです。貴国には、人類に対し他の国々と協力して、建設的なやり方で、全ての核兵器を完全に廃絶する交渉を行う義務があります。

中堅国家構想の議長として、私はこの事業に非難の応酬ではなく、積極的かつ建設的な心構えで取り組んでまいりました。アメリカを手助けしたいと思っています。アメリカの人々を手助けしたい、そしてともに協力すれば、核のない世界で安全保障をもたらせる仕組みを作り上げることができるのだ、非核の世界を作ることができるのだということを、アメリカに伝えたいのです。本日、中堅国家構想は、志を同じくする国々が、核兵器廃絶のための法的・政治的・技術的要件の確認作業に着手するための「第6条フォーラム」を開催する予定であることを発表いたします。第6条はNPTにおいて、非常に重要な役割を果たす条項の一つです。

国連で10月初旬に開催する特別会議に、約30か国から高官級の代表を招待しています。この会議は核兵器に依存しない安全保障を強化するために、単独、二国間、地域、多国間でなされる措置を明確にすることを目的としています。このプロセスによって核不拡散条約第6条で求められ、国際司法裁判所で強化された交渉を、いかに進めていくかの概要を生み出せるかもしれません。交渉の枠組みが開始できるかもしれません。「第6条フォーラム」は、進行中の関連作業とともに当然核不拡散問題にも注目しますが、原則としては核兵器機器の真の要である核軍縮に焦点を当てます。

中堅国家構想は日本国政府を「第6条フォーラム」に参加されますよう、慎んでご招待いたします。フォーラムへの参加は、初期段階では志を同じくする非核兵器国に限定されます。参加国代表は、しばらく時間をかけて共同で作業し、彼らの創造性と尽力を表に出します。対立のない雰囲気の中で、これを行うわけです。新たな協議におけるある時点で、第6条に定められた核兵器国の義務を履行するための新たな措置に参加することに関心を持つ核兵器国にも、参加を呼びかける可能性があります。このプロセスがどのくらいかかるのか、私には今分かりませんが、始めなければいけないということは分かっています。

友人の皆様、ろうそくに灯を点し、世界に希望を示すことが必要です。暗闇の中で呪いの言葉を言うよりも、よほどいいのです。この取り組みは、全て核不拡散条約を強化し、核兵器廃絶のための交渉が求められるだけでなく、完了することを意図しています。この取り組みが、2020年までに核兵器禁止条約の完全実施を求める平和市長会議のキャンペーンに、直接、寄与することと思います。平和市長会議の当面の目標である国連第一委員会で、生産的な取り組みを促し、2006年初めには交渉を開始させることは大いに賞賛に値します。私も支持をいたします。

各国政府は核軍縮につながる特定の問題について、平和市長会議が行ったように、協力して取り組みに着手しなければなりません。その道を先導することは、中堅国家の責務です。第6条フ

オーラムは、この機能を果たす手助けとなるでしょう。志を同じくする国々を、核兵器のない世界を目指す方法の準備に集中させることを通して機運を醸成する中堅国家構想の取り組みと、国連第一委員会の取り組みを進展させる平和市長会議の取り組みは、密接に関係しあっています。中堅国家構想と平和市長会議は、協力して進展に貢献することができます。

全ての核兵器国に対し、世界はあらゆる安全保障問題の中で最大のこの問題に対し、協力して対処できるのだということを示せるのです。しかし、中堅国家構想と平和市長会議単独で、これを成し遂げることはできません。これらの新しい運動に対する世論の支持及び政治的支援に大きく依存することでしょう。全ての核兵器の生産と配備を禁止する核兵器禁止条約の交渉と実施を進めるよう、各国政府に求める世論の高まりが将来、確立されるかもしれません。世界中でネットワークが広がっている平和市長会議の取り組みが、世論に刺激を与えるでしょう。1, 080の市が加盟している、これから先この数はさらに倍に増えるでしょう。そこには膨大なエネルギーがあります。ここにいらっしゃる市長の方々、市の代表の方々、そして日本の広島、長崎のリーダーシップが大きな力となるでしょう。そして、それが世界中でさらに大きなうねりとなっていくでしょう。

また、被爆60周年のこれから3日間の会議が、そのエネルギーをさらに集め、この部屋、この会議場から世界中の地域社会に広がっていくこと、これが私たちがしなければいけない使命です。この3日間をかけてやっていかなければなりません。核兵器国の中から、抵抗して、まだ核兵器が必要だと引き続き主張する国が出ることは予想されます。しかし、そのような要求は、核兵器のない安全保障の構築がよりよく理解され、核兵器保有に反対する普遍的批判の評価が高まっていく世界において、信頼性をどんどん失っていくことでしょう。

広島の友人の皆様、核兵器廃絶のための歴史的機運は、私たちの側にあることを常に念頭に置いておきましょう。核不拡散条約、国際司法裁判所、大多数の国々の議決は、みな核兵器廃絶への明確な約束と背景的な進展を求めています。核兵器の擁護者は、保有を正当化するための最もばかげた論拠に成り下がってきました。核兵器は非道で違法であるだけではなく、今や全く知的根拠を欠いているのです。核兵器を擁護する人々は、笑い者になるべきです。人類が死の商人を乗り越える強さに目覚めるとき、いつか彼らは笑い者になるでしょう。将来の世代が、私たちの時代を振り返ったとき、そして核兵器は過去の遺物だと、過去にとらわれた老人たちの脅迫観念だとはっきりと言うことでしょう。

将来の世代は、いかに人類が自ら大量殺戮をもたらす手段を容認していたのか、きっと理解に苦しむことでしょう。この将来の開花を目指して取り組むことが、私たちの役目です。世界の人々は、真の人間の安全保障構築に私たちが成功することを願っています。私たちは、この仕事で

きることに自信を持たねばなりません。私たちは、歴史的要請に応えることができることを認識しなければいけません。私たちは、核兵器のない世界を作り上げる決意を、常に保たなければなりません。広島は、その強さと希望を私に与えてくれます。ありがとうございました。

広島市長 秋葉忠利：

ロウチ元上院議員、素晴らしい、そして私どもの気持ちを鼓舞してくれるような、そして元気づけてくれるようなご講演をありがとうございました。我々の道は、核のない世界を作り出す、その道を歩むのだという道標をいただいたと思います。非常に精密なご理解と、そして我々に自信を与えてくださった言葉でした。心よりの感謝を申し上げ、そして、その道を私どもが歩けるように、ロウチさんに対してまた再び感謝の拍手をいただきたいと思います。(拍手)